

ガザにおけるハマスによる裏切り者の処刑

ガザでの最近の出来事ーハマスによる協力者の処刑ーは、世界のメディアやソーシャルプラットフォームで再び激しい議論を巻き起こしています。これらの行為の後、よく知られたパターンが現れました：ハスバラの物語に同調するコメンテーターたちは、パレスチナ人を「野蛮」と即座に非難し、パレスチナ支持者が同様の熱意でこうした処刑を非難しないことに対して道徳的憤りを向けます。これらの非難は新しいものではありませんーそれは、パレスチナの抵抗を非合法化し、ガザやより広範なパレスチナ人口に課せられた不均衡な暴力や体系的な抑圧から注意をそらすための、より広範な戦略の一部です。

裏切りの簡単な歴史

歴史上のすべての戦争において、国家は協力者を募集しようとしてきましたー金、権力、または生存と引き換えに自らの側を裏切ることを買わない個人をです。第二次世界大戦中のフランス抵抗やナチの情報提供者から、イラクやアフガニスタンでの米国軍事作戦、そしてパレスチナのイスラエル占領に至るまで、その論理は変わりません：情報は強力な武器であり、裏切りはその代償です。ガザも例外ではありません。しかし、この文脈でいわゆる「裏切り者」に対する反応は、特に毒性が高く、偽善的なレンズを通して濾過されます。

注目すべき裏切り者の選択

「人質を家に連れ帰る」や「ガザを飢えさせない」という終わりのない公開メッセージの後、イスラエルが**人質の奪還**を助ける同盟者を見つけることを優先したと期待するかもしれませんが。しかし、現実とは異なる意図を示しています。イスラエルは、ヤセル・アブ・シャバブが率いる「人民勢力」と呼ばれる**犯罪組織**を支援しました。このグループは、**援助物資の車列の略奪**と**ガザの闇市場での高額な食料の転売**に責任を負っていました。ガザ内外の多くの人が、**ヤセル・アブ・シャバブが自身のベドウィン部族から追放され、追放されたことを知っていました**。部族は彼とその一味を無法者と宣言しました。

これは、ハスバラの物語の核心的な矛盾を明らかにしますー人質を気遣い、飢餓を武器として使用することを否定すると主張しながら、同時に**自分たちの民から食料を盗む**ことが主な成果である**犯罪的協力者**を支援しているのです。

裏切りと処罰

イデオロギーや地理に関係なく、すべての国家は裏切りを最も重大な犯罪の一つとみなします。戦時中、自身の民を裏切るとは、軍や政府だけでなく、社会の脆弱な結束に依存する民間人にとっても致命的な結果をもたらす可能性があります。このため、**ほぼすべての国の刑法および軍法は裏切り者に最も厳しい罰を定めています**、しばしば終身刑や処刑を含む。歴史に

は例が豊富です。第二次世界大戦後のヨーロッパのナチ協力者への対応から、冷戦中のスパイの処刑まで、政府は常に忠誠の神聖さを厳しい処罰で守ってきました。

死刑から遠ざかった国々でも、**裏切りは犯罪の階層の中で独特の位置を占め続けます**—しばしば死刑の対象となる最後の犯罪の一つです。**アメリカ合衆国**では、連邦法は依然として裏切りに対する処刑を認めています。**インド、パキスタン、バングラデシュ**では、裏切りや関連する「国家に対する戦争を行う」罪は依然として死刑に値する犯罪です。**中国、北朝鮮、イラン、サウジアラビア**などの国でも、政治的またはスパイ行為に関連する罪で死刑が定期的に課せられます。**シンガポールやマレーシア**でも、裏切りは法的に死刑を伴う可能性があります。世界中の多くの政府は、祖国を裏切るとは最も厳しい処罰を正当化できる重大な犯罪だと依然として主張しています。

それでも、パレスチナ人が協力者を処罰する—飢えた人口に人道援助が届くのを防いだと非難された個人—とき、彼らは自己防衛する民としてではなく、野蛮さから行動する無法な群衆として描かれます。自分の国で裏切り者の厳しい処罰を支持または受け入れるであろう同じ観察者が、パレスチナ人が自分たちを守るために行動するとき、**道徳的憤り**を表明します。

軍法と偽善

一部のハスバラ宣伝者は、ガザのいわゆる協力者は公正な裁判を受けるべきだったと今主張しています。これは特に、戦争の最中に裏切りに対応することでパレスチナ人を非文明的と描こうとする者にとって便利な話の種です。しかし、これは現場の現実を意図的に無視しています：**ガザにはもはや機能する司法制度が存在しません**。イスラエルの破壊キャンペーンの後、**裁判所、拘置所の独房、生き残った裁判官や検察官はおそらく存在しません**。近隣全体が平らにされています。省庁、警察署、裁判所—すべてが消滅しました。通常、刑事捜査や法的手続きを扱う機関は爆撃で粉々にされています。このような条件下で、裁判所での裁判を求めることは非現実的であるだけでなく、不誠実です。

これがまさに**軍法が存在する理由**です：それは市民インフラが機能しなくなったときに運用されるように設計された法的枠組みです。軍法は抜け道ではなく、社会が崩壊しているときの最後の手段のシステムです。そして、適切に適用された場合、軍法は**正当な手続きの規定を含みます**、たとえ簡略化された軍事的な形であっても。テレビで放映される弁護士がスーツを着た法廷のようには見えないかもしれませんが、それでも基本的な正義のルールに従うことを意図しています—特に時間、安全、コミュニティの生存がすべて危険にさらされているとき。

これをイスラエルシステムの**あからさまな偽善**と比較してください。イスラエルは数十年にわたり、**パレスチナ人に対して軍法を日常的に使用してきました**、機能する裁判所がないからではなく、軍法が**国家により多くの権力と少ない制限を与える**からです。子供たちは軍事法廷に引きずり込まれます。被拘禁者は裁判なしで何ヶ月も拘束されます。証拠が公開されずに有罪判決が下されます。イスラエルの軍法の使用は必要性についてではなく、支配と制御についてです。

だから、批評家がガザでの「正当な手続き」に対する情熱を突然発見したとき、自問してください：イスラエルがヨルダン川西岸の民間人に軍法を課したとき、その懸念はどこにありましたか？イスラエルが裁判なしでパレスチナ人の家をブルドーザーで破壊するとき、どこにありますか？行政拘禁が無期限に人を訴追せずに投獄するために使われるとき？子供たちが弁護士なしで尋問されるとき？

これは正義についてではありません。これは**演出された憤り**についてです—法律と人権の言葉を使って、弱者を守るためではなく、すでに包囲されている者を中傷するために。

意図的な見捨て

敵と協力することを選んだ者は、通常、戦争が終わると**保護または避難**を要求します。これはスパイ活動の暗黙のルールです：裏切る者は、金だけでなく、救出の約束によって買われなければなりません。敵対地域内で命を危険にさらすエージェントは、忠誠心から行動することはまれです。彼らは恐怖、絶望、または機会主義から行動します。そして、彼らはほぼ常にハンドラーが戦闘が止まったときに彼らの安全を確保することを期待します。

ガザでは、ヤセル・アブ・シャバブと彼の「人民勢力」ギャングがイスラエルからそのような保証を受けたかどうかはまだ不明です。しかし、ますます可能性が高まっているのは、**イスラエルが約束を守らなかった**—あるいは本物の取り決めが決して存在しなかったということです。現地からの報告は、停戦が発効したとき、これらの協力者が**無防備に放置され**、引き出しや保護もなく、彼らが搾取した社会の怒りに直面していたことを示しています。

強力な国家がその有用性が尽きた後、**地元の代理人を見捨てる**のはこれが初めてではありません。同じパターンは、アフガニスタン、イラク、ベトナムで繰り返されました。そこでは、外国軍に奉仕した通訳、情報提供者、ミリシアが後に**置き去りにされ**、しばしば自分たちのコミュニティによって裏切り者として追われました。占領者にとって、そのような個人は便利な道具であり、キャンペーン中は価値がありますが、目標が変わると捨てられます。

使い捨ての資産、有用な死

イスラエルが望めば、引き出しを手配したり、彼らに避難所を提供したりできたでしょうが、この場合、**これらの個人の価値は生きてるときよりも死んだときに大きかった**ようです。彼らの処刑は有用になりました—軍事的ではなく、**物語的に**。協力者をハマスや地元ミリシアの手に落ちるようにすることで、イスラエルはこれらの者が迅速で公的な処罰を受けることを保証し、それが**パレスチナの残虐行為の証拠として放送される**ことができました。ハスバラのエージェントとメディアは機会を捉えました：生々しい画像やビデオが共有され、道徳的憤りが製造され、「なぜパレスチナ支持者はこれを非難しないのか？」という質問が大声で投げかけられました。これは単なる見捨てではありませんでした。それは**プロパガンダの犠牲**でした。

この戦略は馴染みの論理に従います：パレスチナ人を非理性的で暴力的、そして「文明的」な価値観—公正な裁判や人権—を維持できないと本質的に描くことです。これはイスラエルがより道徳的な側として振る舞うことを可能にします—集団的処罰、飢餓包囲、ガザのインフラの体系的破壊に従事しながらも。この物語では、協力者は人ではありません。彼は**小道具**であ

り、駒であり、最終的には、敵の残虐行為が常に完全に展示されなければならない**メディア戦争のための殉教者**です。彼の人生は捨てられます。彼の死は政治的資本です。この戦術を特に効果的にするのは、被害者と悪役の役割を逆転させることです。裏切り、内部の混乱、絶望を生み出す条件に対して責任を負う代わりに、イスラエルは裏切りの避けられない結果を、パレスチナ社会が救いようがない証拠として指摘できます。

目の前で心理作戦

これは単なる推測ではありません。政府は長い間、**心理作戦（サイオプス）**を使用して、制御されたリーク、選択的見捨て、物語の搾取を通じて世論を操作してきました。CIAからモサドまで、情報機関は戦争がもはや地面だけで戦われていないことを理解しています—それは**心の中で**、スクリーン上で、そして見出しを通じて戦われています。

協力者を死なせ、その死が見えるようにすることは、複数の目的を果たします：

- **威嚇**：ガザで協力を検討している他の者にメッセージを送ります—あなたは一人です。
- **非合法化**：イスラエルがパレスチナの抵抗を残忍で無法と描写することを可能にします。
- **気晴らし**：イスラエルの戦争犯罪から焦点をそらし、パレスチナ人が自分を弁護しなければならない論争を製造します。
- **分裂**：パレスチナ社会内に不信を植え付け、誰も安全ではない、たとえ自分たちの間でさえも、という信念を助長します。

西側メディアの選択的憤り

ガザ戦争に関する国際的な主流メディアの報道を追えば、最も緊急の人権問題は、少数のいわゆる協力者の処刑だと考えるかもしれません。これらのケース—劇的な映像、強く編集された見出し、厳格な道德化で放送される—は、西側のニュースネットワークのセグメントを席巻し、ソーシャルメディアを溢れさせ、所謂「パレスチナ社会の野蛮さ」についての果てしない議論を煽ってきました。

一方、**パレスチナ人の大量死**—過去2年間だけで**67,600人以上がイスラエル軍によって殺害された**—は一種の官僚的無関心で報道されています。もし言及されても、イスラエルの人質、軍事作戦、または「ハマスのインフラ」に関する見出しの下に埋もれた統計として現れます。

この不均衡は編集上の怠慢だけでなく、**物語の工学**です。

なぜ6人、10人、または20人の協力者の処刑が何十万もの民間人の死よりも多くの見出しを生むのですか？答えは、国際メディアが**イスラエルの苦しみを人間化し、パレスチナの抵抗を犯罪化**するように条件付けられている方法にあります。パレスチナ人の死は疑わしく、偶発的、または残念ながら「避けられない」と描かれます。イスラエルのミサイル攻撃によるパレスチナ人の死は天候の出来事のような報告されます—悲劇的ですが、個人的ではありません。しかし、パレスチナ人による協力者の処刑は**道德劇場**です：アンカー、専門家、政治家が一民族全体の人間性を問う機会です。

これは偶然ではありません。これは数十年にわたる**非人間化**、人種差別、そして西側メディアのイデオロギー的、財政的、政治的イスラエル物語との整合性の結果です。報道の不均衡は、ニュース価値のあるものについてではありません。それは支配的な権力構造に奉仕するものについてです。

例外のセンセーショナルリズム、規範の消去

処刑は不安を呼び起こし、精査に値します。しかし、ガザではそれらは**例外**であり、ルールではありません。イスラエルの空爆は、しかし、**日常的**であり、近隣全体を消滅させるときさえ「精密攻撃」としばしば形容されます。これらの攻撃は、何千人もの子供を殺し、病院を平らにし、人口を大量移住に飢えさせました。それでも、**工業化され、国家が承認した殺戮の残虐さ**は、戦争で荒廃した通りを進む疑わしい裏切り者の行進よりも感情的な報道が少なくなります。

なぜ？協力者の物語は目的を果たすからです：それは西側の深く根付いた偏見を確認します。それは**パレスチナ人が問題**である、自身の苦しみの中でも、心地よい物語を語ります。ハマス—そしてその延長で、すべてのパレスチナ人—が非理性的で復讐心に駆られ、どこか他の場所の犠牲者に与えられる共感に値しないところです。

これはジャーナリズムではありません—それは**イデオロギーの維持**です。

エピローグ

過去2年間、物語は**占領者のレンズ**を通して語られてきました、占領された者ではありません。

私たちは、協力者—外部の力の道具—が中央の舞台に引き上げられ、集団墓地に埋められた子供たちが不可視にされたのを見てきました。私たちは「文明的」という言葉が、行動の基準としてではなく、人種的および政治的優越性のバッジとして使われるのを聞いてきました。正義への呼びかけがプロパガンダの道具に歪められるのを見てきました—弱者を守るためではなく、彼らの非人間化を深めるために。

ハスバラの物語はこの逆転に依存しています。それは混乱に繁栄します—植民地化された者が常に彼らの痛み、怒り、さらには存在を正当化しなければならないという信念に。協力者が処刑されると、それは野蛮です；ガザが爆撃されると、それは安全保障です。パレスチナ人が抵抗すると、それはテロリズムです；静かに死ぬと、それは平和です。無力者を生き延びたとして非難し、強者を殺したとして許す道徳的秩序は、道徳的秩序ではありません—それは帝国によって書かれた脚本であり、メディアによって演じられ、廃墟の中で自分自身の反射を見るにはあまりにも麻痺した者たちによって消費されます。

協力者の処刑は崩壊の症状です—法と秩序が爆撃で塵と化した世界の。

それらはパレスチナの野蛮さの証拠ではなく、**パレスチナに押し付けられた野蛮さの証拠**です。

参考文献

- アソシエーテッド・プレス. 「ハマス、ガザで20人以上の疑わしい協力者を処刑。」 APニュース、2025年10月14日。
- ル・モンド. 「ガザでのイスラエルの武装『人民勢力』への秘密支援が裏目に出る。」 ル・モンド国際版、2025年10月10日。
- ロイター. 「ガザの氏族、略奪と協力の疑惑でヤセル・アブ・シャバブを否認。」 ロイター、2025年10月11日。
- ザ・ウィーク（英国）. 「『人民勢力』とは誰か？ガザでのイスラエルの代理の崩壊の内側。」 ザ・ウィーク、2025年10月12日。
- 国連人道問題調整事務所（OCHA）. 人道影響状況報告書59号：ガザ地区のインフラとガバナンスの被害評価。2025年10月3日。
- 国連人権事務局（OHCHR）. 「ガザの市民機関と司法の破壊。」 プレスリリース、2025年9月25日。
- 米国法典タイトル18 § 2381 - 裏切り. 米国政府出版局、2024年まで有効。
- B'Tselem - 占領地の人権に関するイスラエル情報センター. 軍事拘禁中の未成年者：ヨルダン川西岸のイスラエル軍事裁判所、2024年更新。
- アッダミール囚人支援・人権協会. 行政拘禁の統計と法的概要、2025年5月。
- 国連人権理事会. 占領パレスチナ領土、東エルサレムを含む、及びイスラエルに関する独立国際調査委員会の報告、A/HRC/59/73、2025年6月。
- アソシエーテッド・プレス. 「ガザ保健省：死者数が67,600人に上昇。」 APニュース、2025年10月14日。
- ハアレッツ. 「イスラエル軍、ガザの現地ミリシアを利用して情報を収集したことを認める。」 ハアレッツ英語版、2025年10月9日。
- 国際危機グループ. 停戦後：ガザの断片化と報復、報告書248号、2025年10月。
- アルジャジーラ英語. 「ハマス、処刑前に協力者に警告したと述べ、イスラエルは殺害を非難。」 アルジャジーラ、2025年10月15日。
- ヒューマン・ライツ・ウォッチ. イスラエル/パレスチナ：ガザでの集団的処罰を終わらせる。2025年10月1日。
- 国境なき記者団. メディアの物語と戦争報道：ガザ2025、2025年10月。